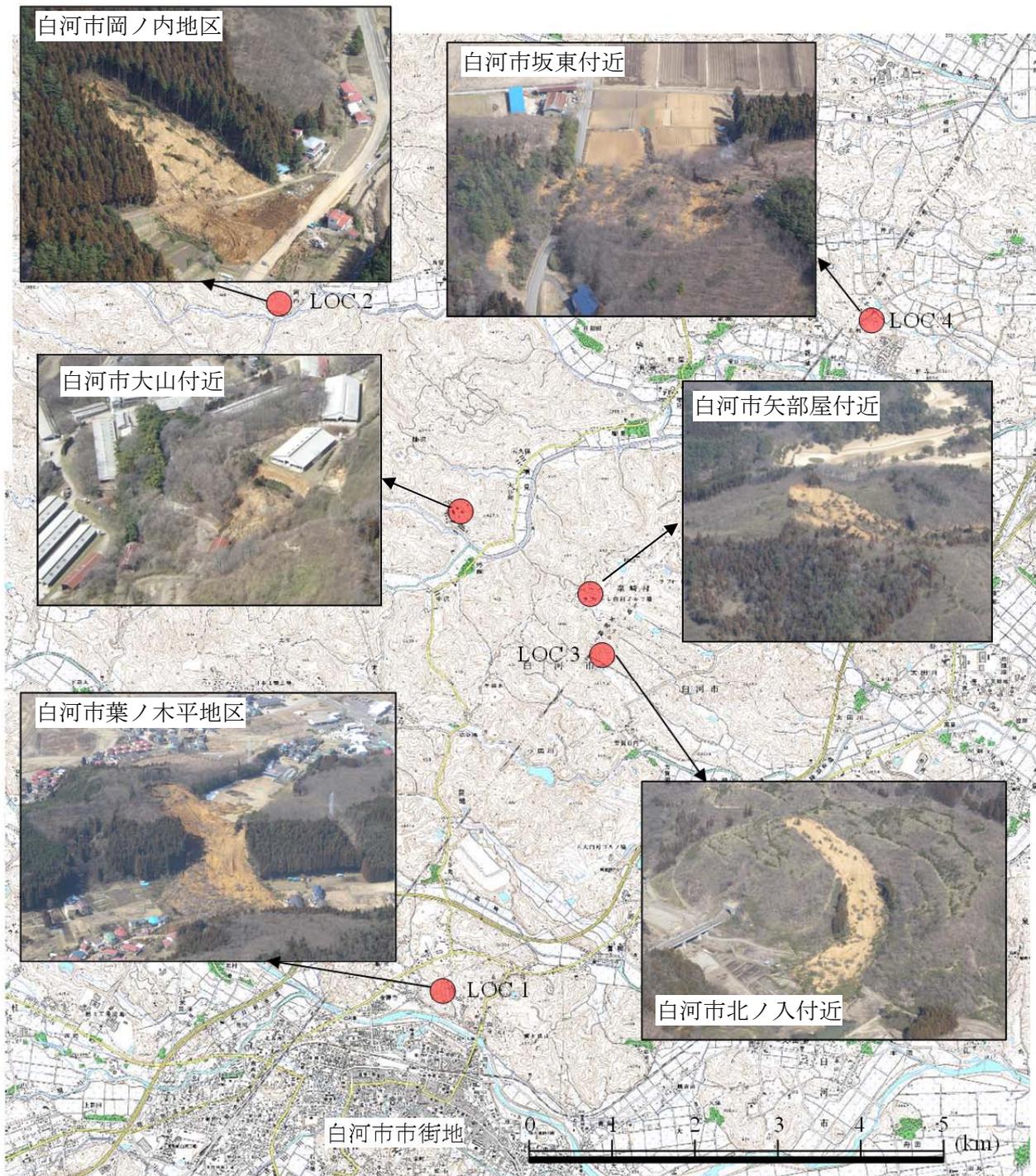


# 平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震 ヘリ調査（速報）

独立行政法人土木研究所  
土砂管理研究グループ地すべりチーム

2011 年 3 月 11 日に発生した平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震（震源地：三陸沖、震源の深さ約 24km（暫定値）、最大震度 7、M9.0（暫定値））により、多数の斜面崩壊・地すべりが確認されています。地すべりチームでは 3 月 14 日、国土交通省砂防部、国土技術政策総合研究所砂防研究室と合同で、ヘリコプターによって揺れの大きかった福島県周辺の調査を実施しました（白河市：震度 6 強）。その一部について報告します。

（本資料に掲載している情報は速報であり、今後変更することもあります。また、規模に関する数値は図上計測によるものです。）



土砂災害箇所位置図

今回調査した範囲では、多数の地すべり・崩壊が確認され、土塊が流動化したと見られるものも複数確認された。（土砂災害箇所位置図参照）

地すべりが発生した箇所の地質は、多くは溶結したデイサイト凝灰質角礫岩や火山礫凝灰岩から構成される白河火砕流堆積物群であり、黄褐色を呈している。これらの堆積物は前期更新世の火砕流に伴うものとされている。<sup>1)</sup>

以下に主な地すべり（LOC.1～4）の状況や特徴等を報告する。



〔LOC.1〕 白河市葉ノ木平地区

崩壊性の地すべり（幅約 70m、長さ約 100m）で、土塊が流動化したものと見られる。



〔LOC.2〕 白河市岡ノ内地区

斜面の脚部の崩壊性の地すべり（幅約 50m、長さ約 100m）。堆積土砂は既に撤去されている。



〔LOC.3〕 白河市北ノ入付近

崩壊性の地すべり（幅約 50m、長さ約 200m）で、土塊が流動化して谷沿いに流下したものと見られる。



〔LOC.4〕 白河市坂東付近

規模は幅約 50m、長さ約 70m。比較的土塊の形状を残している。

#### 参考文献

- 1) 久保ほか(2007). 20 万分の 1 地質図幅「白河」. 産業総合研究所地質調査総合センター